

無償資金協力に係る事後評価票

(注)本案件は外務省評価案件です。

本評価票は外務省のホームページにて公開されている2005年度の無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価報告書(平成17年度)に掲載されている個別事後評価です。

担当公館名：在トリニダード・トバゴ日本国大使館	
国名：セントルシア	案件名：ビューフォート水産複合施設整備計画
E/N署名日：1998年6月2日	供与限度額：10.08億円
先方実施機関：農林漁業省水産局	完工日：2000年3月3日
他の関連協力：なし	
1. 案件の目的	漁業活動の効率化により漁業生産量の増加を図り、併せて水揚げされる漁獲物の鮮度保持及び一般消費市場への安定供給を促す。また、盛漁期と閑漁期の供給量及び価格の差を解消するため、現行の調整保管を改善することにより漁業者の利益を図る。
2. 案件の内容	セントルシアの南部地区のビューフォートに漁業活動、流通の拠点として漁港施設（防波堤、護岸、斜路等）、荷捌き所、小売市場、製氷機、冷蔵庫等の水産流通施設を整備した。
3. 案件の妥当性	<p>全般的評価：A</p> <p>詳細評価：</p> <p>セントルシアの第2次中期経済戦略における主要開発テーマ（経済活動の振興、インフラ設備投資の増強、生産性の向上等）及び水産開発部門における政策目標（資源の維持と安定的な漁業生産の確保等）に合致している。ビューフォートは漁業者数、漁船登録数、水揚量がセントルシア国一であり、この地域における整備の必要性は現地のニーズにも合致している。</p> <p>また第1回日・カリコム（CARICOM（カリブ共同体）：カリブ諸国を中心に14ヶ国1地域からなる地域共同体）閣僚級会合（2000年）において策定された「21世紀における日・カリコム協力のための新たな枠組み」の中で、水産業の更なる強化のためにインフラ開発等の分野において緊密な協力を行うことにも合致している。</p>
4. 施設／機材の適切性・効率性	<p>全般的評価：A</p> <p>詳細評価：</p> <p>荷捌き所、小売市場、製氷機、冷蔵庫等の水産流通施設及び保冷トラック、フォークリフト等の機材、その他施設も充分利用されている。キャンティーン（食堂）は食事だけでなく休憩所としても活用されており、また製氷機、冷蔵庫、漁民ロッカー等一部の施設についてはまだ能力的・スペース的に余裕がある状態ではあるが総じて適切な選択、投入であると判断する。</p>
5. 効果の発現状況（有効性）	<p>全般的評価：B</p> <p>詳細評価：</p> <p>ビューフォートにおける水揚量は、年度により上下するものの平均して上昇しており（370トン（整備前5年（1995-1999）平均）→408トン（整備後5年（2000-2004）平均））、現在もセントルシア国における最大水揚地として漁業生</p>

	<p>産の増加に寄与している。</p> <p>また、製氷機、冷蔵庫等の整備により、これまで盛漁期に過剰に漁獲され、廃棄していた水産物を保管できるようになり、水産物輸量は「558トン（1999年／整備前）→313トン（2001年／整備後）」と減少し、閑漁期における一般市場への安定的な供給に貢献している。一方、市場では自由価格制度が実施されているものの、セントルシア水産流通公社（SLFMC）の買付価格は依然として市場価格形成に大きな影響を与えており、盛漁期と閑漁期におけるSLFMCの買付価格に差があるため、これらの価格差の解消にはつながっていない。</p>
<p>6. インパクト（波及効果）</p>	<p>全般的評価：B</p> <p>詳細評価：</p> <p>施設整備後、ビューフォートにおける漁業者数（専業及び兼業）及び漁船登録数は、それぞれ「266人（1998年／整備前）→352人（2001年／整備後）」及び「121隻（1998年／整備前）→167隻（2001年／整備後）」と増加しており、同地区における雇用機会創出に貢献している。</p> <p>水産業のGDPの寄与率は、本施設整備のみの効果だけではないにせよ、若干の上昇が見られている（1.0%（1999年）→1.5%（2001年））。</p> <p>また、整備前の水揚地近郊では浮浪者が多く雰囲気の良いイメージであったが、本施設が整然と整備されてからは漁港周辺の環境が大きく変わり、治安が良くなった等、当初想定していなかった効果を得ることができ、地元住民は本施設に対し好ましいイメージを持っている。しかし、施設に人が多く集まるようになった反面、ゴミを港湾内に捨てる人が増加し、湾内清掃のため年間約EC\$5,000（約20万円）の支出が必要になるなど、同地区におけるモラルの問題が新たに生じている。</p>
<p>7. 自立発展性・さらなる改善の余地 (改善の余地がある点については以下に記入)</p>	<p>全般的評価：B</p> <p>詳細評価：</p> <p>施設の運営、機器類の保守・修理等については、JICAによる研修を受けた者が関与しており、自助努力も行われている。ただし、水産物の取扱いという特殊性もあり冷蔵庫等の機器類は日本製が多く、スペアパーツ等は日本から輸送せざるを得ないため、緊急時の対応には然るべく備えておく必要がある。</p> <p>また、漁業者の衛生や鮮度に関する意識も高まっており、使用後の施設の清掃も行き届いている。さらに本施設はHACCP（危害分析重要管理点：食品製造における衛生管理のシステム）に準ずるものではないが、セントルシア水産流通公社（SLFMC）は、現在の開放型構造の小売市場を将来的には閉鎖型にしてHACCPに準ずるようにしたいと考えており、特に衛生面に関し今後の発展が期待される。</p>
<p>(1) 対応方針</p>	
<p>(2) 対応方針理由</p>	

<p>8. 広報効果 (ビジビリティ ー)</p>	<p>全般的評価：C 詳細評価： セントルシア政府及び施設の利用者は本施設が日本からの援助であることを十分に認知している。その理由として、本施設の竣工により労働環境が大きく改善されたこと、日々使用する機材に日本のODAステッカーが貼られており、それらを日々目にしていることによる。 ただし、日本からの援助を示す銘板がやや奥まったところにあり、入口から市場に向かう地域住民はそれを目にすることがないため、同地区の住民でも日本からの支援であることを必ずしも把握しているというわけではない。 なお、同地区から直線距離で約 25km 離れた首都カストリーズにおいては、本施設が日本の援助により建設されたこと知っている者は政府関係者及び水産関係者以外ではほとんどいない。</p>
<p>9. 被援助国による評価</p>	<p>本施設を管理・運営する農林漁業省水産局、冷蔵庫等の水産物流通施設を管理するセントルシア水産流通公社(S L F M C)、給油・漁具販売等を行う漁業協同組合及び漁業者による本施設の評価は高く、施設の整備内容、規模、配置等について満足しており、労働条件も大きく改善されたとの回答であった。 ただし、公衆トイレ周辺の建物にはトイレが設置されておらず、降雨時でも建物の外に一度出る必要があり、予算の都合によりやむを得ないとはいえ、もう少し利用者の立場を考慮して欲しいとの声の一部職員から聞かれた。</p>
<p>10. 提言・教訓</p>	<p>施設の運営、機器類の保守・修理等については、技術協力プロジェクトやJ I C A 専門家による指導を受けた者が関与する等、日本からのハード的支援とソフト的支援の連携がうまく貢献している。 なお、セントルシアの消費者は(1)水産物の鮮度に関する意識が低い、(2)限られた魚種しか食べない、(3)魚の調理方法が限られている、等の理由により、漁業者の鮮度保持、資源管理・調査の意識が高まりつつも、それが必ずしも収入増につながらないことから、それらに対する積極的な取組みが行われないうである。 今後は漁業関係者だけでなく、日本の「食育」にあたるような消費者に対する意識を変える活動にも取組むことが本施設のみならずセントルシア水産業の発展につながると考えられる。</p>
<p>11. その他</p>	